

京都産業大学 情報理工学部 さま

120V型 8Kインフォメーションディスプレイが拓く未来の生活を、
実験住宅「EHome（くすいーほーむ）」で体感できます



■導入商品

8K液晶パネル搭載インフォメーションディスプレイ
8M-B120C（120V型）

■導入先

京都産業大学 情報理工学部さま
<https://www.kyoto-su.ac.jp/>
京都市北区上賀茂本山

京都市内北部にキャンパスを構える京都産業大学。その情報理工学部では、平井研究室を中心に、スマートハウスでの近未来の生活スタイルを研究しています。そこでは、様々なテクノロジーが追加・内蔵された住空間を構築し、実体験できる場として未来の生活と空間の活用について追求しています。

こんなソリューションを実現しました

導入前の課題

フルハイ解像度（1920×1080）の大型モニタを使用していたが、細かい文字がつぶれたり、リアル性に欠けるなど、表示品質に不満があった。大学研究室として最先端設備を取り入れるべく、大画面120V型・高精細8K解像度（7620×4320）インフォメーションディスプレイ導入を検討。

8Kなので、細かい文字もくっきり。電子化されたコンテンツ「電子本棚」の背表紙も鮮明に表現できて、実用度が大幅アップ。

120V型大画面 / 高精細8K表示のミーティングモニタとして大活躍。鮮明資料が議事進行の効率化に寄与。

CGを活用したメディアアート作品を精細に表示。人の動きや操作で変化する抽象的な楽しみ方を模索・提案。



京都産業大学 情報理工学部
准教授 平井 重行さま

■導入の背景

実際に住める実験住宅で、近未来スマートハウス研究を。

情報理工学部では、最新機器を設置したさまざまな施設を用意しており、「Ehome（くすいーほーむ）」もその一つ。壁や床、周囲のモノにセンサやディスプレイを埋め込み、インターネットサービスと連動する近未来のスマートハウスを作り、新たな生活スタイルを研究・提案しています。壁や床・天井もインタラクションの場と考えており、「身の回りの環境でこんな事が出来る」を視覚的に表現するのに、壁掛け大型モニタを活用してきました。TVを見たりゲームをするだけでなく、電子化されたコンテンツを活用したり、メディアアートを表示します。旧来の大型モニタ入れ替えに際し、新規導入機器はより高解像度であることを最重要視しました。

選ばれた理由

電子化されたコンテンツを表示・検証するために、8Kディスプレイは欠かせないツール。

電子化されたコンテンツ、例えば「電子本棚」も高解像度であれば背表紙の文字がはっきり識別できたり、多彩な表示が可能になります。また、メディアアートもより精細に表現できるなど活用度が広がります。そのため、従来のフルハイ解像度ディスプレイから、高解像度8Kディスプレイへのリプレイスは必然でした。さらに大学の研究施設として最先端設備を取り入れる使命もありました。当初、60V型×4面マルチ（4K解像度×4で8K相当）も検討しましたが、やはり8M-B120Cの他にはないサイズ感と、1枚ものの画面が醸し出す表現力が採用の決め手となりました。近未来のワクワクする生活環境を研究するにあたり、8Kディスプレイはメインデバイスとなっています。



導入後の効果

まるでSFやアニメの世界のような近未来の生活を体験できるさまざまな取組みで活躍。



- 以前にLiDARセンサを用いて研究室で独自開発したマルチタッチ技術があり、それを8M-B120Cにも適用してタッチディスプレイ化を行います。高精細タッチ画面ならではの細かな表示と操作する際の感覚が魅力です。
- 「発光する高精細ディスプレイ」がある家では、アートも楽しめます。CGやサウンド、センサなどによるインタラクション技術を駆使したメディアアートを複数人で操作するなど、芸術や遊びの要素を取り入れた新たな生活スタイルを体感できます。

■今後の展望

オープンキャンパスや企業見学での8Kディスプレイ活躍に期待。

高校生・保護者を対象としたオープンキャンパスの目玉の一つが、情報理工学部の施設ツアー。「Ehome（くすいーほーむ）」での近未来生活体験と、8Kディスプレイの高解像度/大画面デモが、来場者に大きくアピールする事が期待されます。また、8M-B120Cを打合せ用モニタとして研究室室内ミーティングなどにも活用していますが、今後は書き込み機能の追加など、用途も一層広げていきたいと考えています。

